



社会福祉
法人

豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

2008年(平成20年)3月31日

第47号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚 2-28-7 Tel (6848)1000

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>

E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

ボランティアグループ
あれこれ



友愛電話訪問ボランティアグループ

「聴くの会」 編

「聴くの会」は、市社協登録の友愛電話訪問ボランティアです。電話を通して、ひとり暮らし高齢者の安否確認とお話し相手を主な目的としています。(P.8参照)

活動は福社会館の2階にて毎週火曜日の午前と午後、それぞれ2名ずつの当番を決め、あらかじめ登録された希望者の方のご自宅にお電話をかけています。「お変わりありませんか。」と問いかけ、聞き慣れたお声が返りますと安堵いたします。会話が進むうちお互いに相通じる気持ちが育っていきます。高齢者の孤独、不安感などが徐々にやわらぎ、社会に適應しているという自覚で気持ちがうんと軽くなっていかれるのが伝わってきます。季節のことや趣味のことなどに会話が弾む時もあります。

心を込めて傾聴、受容、共感する。優しい言葉、相手を思いやる言葉で、と心がけています。その為にも専門講師との勉強会、「聴くの会」定例会などでメンバー同士様々な意見を交わし、電話対応の向上に努めています。対面することなく電話機を通してのみのボランティア活動ですが、興味をお持ちの方は一度見学にいらっしやいませんか。

また、「聴くの会」は永年にわたる友愛電話訪問ボランティアの活動に対し、平成19年度ボランティア厚生労働大臣感謝状を授与されました。(下記写真)

◎活動に興味のある方は・・・

★定例会

毎月第4木曜日 10:00～12:00

★活動日

毎週火曜日 10:00～13:00、13:00～16:00

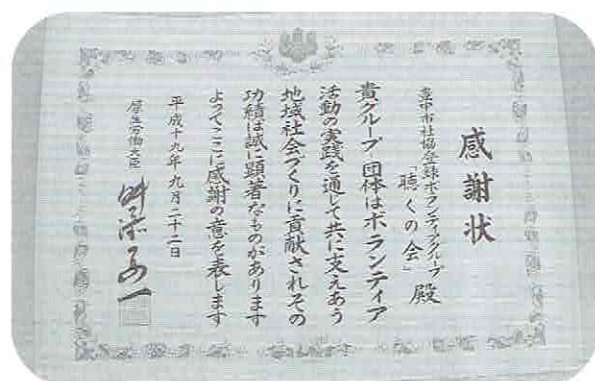
★場所

市立福社会館

豊中市中桜塚2-28-7

★お問い合わせ

☎06-6841-9393



ボランティアレポーター訪問記

体験型防災学習施設
大阪市立阿倍野防災センター

《高齢者介護支援ボランティアグループ 「ステッキ」》

11月22日、阪神・淡路大震災から12年。あの教訓を忘れないようにとの思いで、上記のセンターに行ってきました。

それぞれが、手首にセンサーを付けて、火災時に煙を吸わないように避難。模擬画面を使つての消火訓練。モニター画面に従って消防署に119番通報。南海地震を想定した揺れを体験。最後にそれぞれ修了書をもらい、自分の姿をモニター画面で見て爆笑のうちに、貴重な体験を終わりました。知識だけではなく、身体を使って覚える大切さを実感しました。



《外出支援ボランティアグループ「みちしるべ」》

3月11日、メンバー13名で、見学研修を行いました。(上記写真)

このセンターは体験が主で、最初に阪神・淡路大震災の再現体験があり、その後、消火器・消防ポンプの使い方、倒壊家具からの救出、救急用品の使い方などの講習をしました。最後に、将来予想される南海・東南海地震の激震を体験し、約1時間の体験、研修を終了しました。

改めて地震の恐ろしさ、怖さを再認識し、その時に備えなければ、との意識を強く感じた研修でした。

びわこ学園見学研修会

3月11日に滋賀県草津市にある「びわこ学園医療福祉センター 草津」に視察研修のため訪問しました。当日は企業・団体ボランティアネットワークとよなかのメンバーと市社協登録ボランティア総勢18名が参加しました。

この施設は医療と教育の機能を持つ重症心身障害児施設で、病院の機能をもった施設として全国で2番目に開設されました。

びわこ学園創始者の糸賀一雄さんは「この子らを世の光に」と提唱し、障害があってもその人らしさが輝く「ふつうの生活」を送る事ができるよう支援していくという理念は、今も引き継がれています。

現在、108名が入所されており、障害の状態によって3つの病棟に別れ生活をおくっています。施設に隣接している養護学校に通学されている人や、日中スタッフと一緒に絵画や音楽活動をするなど一人一人にあった活動を行っています。また、近くにある大学の学園祭や年に数回旅行に行かれる方もおられます。視察の日は天気良く、庭で日向ぼっこをされている気持ちよさそうな笑顔が印象に残りました。

長い歴史を持つびわこ学園を視察させていただき、障害者への想いや理念をこれからの豊中市のボランティア活動に活かしていけるよう頑張っていきます。



◎参加者の感想◎

- ・施設の雰囲気明るく、重症心身障害児施設とは思えなかった。入所希望者が多くなかなか受け入れできない状況などいろいろな話を聞けて勉強になりました。
- ・24時間体制で利用者の介護や看護にあたられており、スタッフの体調管理やシフト体制などが大変ではないかと気になりました。

～災害支援訓練～



↑テント設営の様子



↑ニーズの聴き取り訓練

市社協では、1月19日（土）豊中市全域で震度6強の地震が発生したという想定で、災害支援訓練を実施しました。

今回は、より実際に近い訓練をということでボランティアの受付から開始しました。

〈当日の流れ〉

福祉救援対策本部設置



ボランティア受付：受付、名札等の作成



グループづくり・活動調整：ニーズに基づいてメンバーを集め、リーダーを決定



オリエンテーション：活動上の注意など確認



活動資材・物資提供：活動に必要な物資を揃える

☆桜塚・高川小学校へ向かうチーム

非常食や水を持って、各小学校へ移動。災害時に危険となりそうな箇所をチェックしながら、撮った写真を福祉会館の本部に送信して随時報告していきました。

小学校到着後は、校区の対策本部を設置するなどの活動を行いました。

☆安否確認を行うチーム

ひとり暮らし老人の会・介護者（家族）の会の役員さんが、緊急時の連絡網を使用し、会員の方の安否確認を実施。

☆本部での作業チーム

各所から集まる被害情報をまとめたり、テントの設置、非常食のアルファ米の準備をするなどの訓練。

☆ニーズを受け付けするチーム

ボランティア活動推進センター「ぷらっと」へ移動し、被災者の方からニーズを聴き取る訓練をしました。どのような支援が必要で、どんなボランティアを調整するかを受付票にまとめ、本部に情報を送ります。実際はニーズを受けた本部で、それぞれに見合ったボランティアの方を調整するという流れになります。

また、同時に災害ボランティアセンターとしてホームページを立ち上げるシミュレーションも行いました。

☆市役所・福祉の店「なかま」へ向かうチーム

目的地へ移動しつつ、周辺の被災状況を調査。通れない道路がある、など想像しながら本部へ報告を入れ情報収集を心がけました。

対策本部

★第15回★豊中ボランティアフェスティバル

ステージ発表



2月10日(日)ボランティアセンター開設20周年記念ということで、前日の残雪の中、早朝から約900名の参加者が集まりました。

オープニングは総勢40名の【梅花チアリーディングチームキッズ RAIDERS】で、小学生の皆さんによる元気な演技でした。白と紫のユニフォームの色も鮮やかに、一気に会場は盛り上がりました。演技に合わせて「や!」という合いの手の声が会場に快くこだまし、大きな拍手がおきました。

来賓の挨拶やイラストコンクール表彰、福祉体験作文の発表など、プログラムも順調に進行し、午前のハイライトは「ともしび歌声広場」でした。会場いっぱいに懐かしい曲、思い出の曲が流れ、参加者は皆出てくる曲に足でリズムを合わせながら、口ずさんでいました。(アクセスM.Y)



午後の部はショーのオンパレード。トップバッターは「夢楽らいぶ」一座によるギターの弾き語りショー。この一座は豊中ボランティアフェスティバルには初出場ながら、府内の福祉関係施設では引っ張りダコの人気!3人トリオのミュージシャンが元気いっぱいに盛り上げてくれました。

その後、迫力満点の和太鼓や、おなじみとなりました手話歌・手作り介護用品のファッションショー・手品・歌体操と楽しい発表が盛りだくさんでした。

ちょボラサロン「えがお」のフラダンスでは男性ダンサー?も見事な踊りっぷり。照れ屋の私にはとてもできない芸当でした。

さらに、市役所職員有志による、よさこいソーランと歌や、ハンドベルなど会場も一体となつてのショータイムが続き、最後は手話を交えて会場全員による「ボランちゃんの歌」の合唱で幕を閉じました。(アクセスK.N)



老人介護者(家族)の会コーラス



豊中市老人介護者(家族)の会のみなさんが、認知症の家族の介護をとおして少しずつ気づき、やっと分かってきたという認知症の方の気持ちを代弁するかたちで歌にされました。

今回のボランティアフェスティバルでは、大池コーラスの方々と一緒に歌を披露していただきました。少しでも多くの方にこの歌に込められた気持ちをお伝えしたいという願いから、以下に歌詞を掲載させていただきます。

～認知症 Songen Song～「安心と希望のうた」

- | | |
|---|--|
| <p>1番) お願い 私を 責めないでください
 つらいとおもうのは わたしも同じ
 たとえ 戸惑い さまよっても
 人の心は なくしていない</p> | <p>3番) お願い ひととき しあわせをください
 笑顔で 手を取り 話してほしい
 たとえ すぐに 忘れ去っても
 あなたの やさしさ 感じています</p> |
| <p>2番) お願い 私を 見つめてください
 不安な気持ちを うまく言えない
 たとえ 何が わからなくても
 明日への希望を 持ち続けたい</p> | <p>たとえ 何を 忘れ去っても
 あなたの やさしさ 感じています</p> |

(♪メロディーは「浜べのうた」で♪)

販売コ～ナ～では...

1階各会議室では、福祉の店「なかま」の出店作業所による出張販売コーナーが設けられていました。各作業所からパンやお菓子、手芸品など様々な商品があり、昼食をとられる方や買い物される方で大賑わいでした。

今年度(第15回)は、ボランティアセンター開設20周年を記念し、豊中ボランティアイメージキャラクター「ボランちゃん」のオリジナルグッズも出品されました。



ファミリーボランティア体験コーナー



↑手話体験にチャレンジ

このコーナーでは、スタンプラリー形式で、会場内に設置されている8つのポイントを回ります。ポイントではそれぞれ8種類のボランティア体験が用意されており、参加者の方は体験を終えるごとにスタンプを押してもらいます。

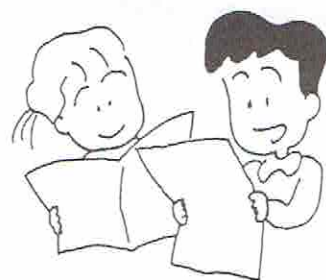
〔ボランティア体験の内容〕

- | | |
|---------------------|-----------|
| ①リフト付自動車「ユウあい号」の試乗 | ②アイマスク |
| ③ホームページ作成 | ④車いす・階段昇降 |
| ⑤インスタントシニア(高齢者擬似体験) | ⑥手話 |
| ⑦対面朗読 | ⑧点字 |

《福祉体験作文優秀作品》

「体験学習で感じたこと学んだこと」をテーマに、市内の小・中学校の児童・生徒を対象に作文を募集し、優秀作品をボランティアフェスティバルで発表していただきました。

その中から1作品ご紹介いたします。



豊中市立第二中学校

1年 嶋原 千高さん

「募金活動をしてみて」

私は、今回学校のボランティア活動として「募金」活動になりました。今まではボランティアなど、施設訪問しか行った事もなかったし、それも大人数でした。でも今回は少人数で二日間に渡るボランティア活動だったので少し楽しい気持ちもありました。

一日目、Bグループの私は蛍池駅へ向かいました。皆で作っておいた募金箱とポスターを持って、少し恥ずかしい気持ちもありながら、募金活動に取り組みました。初めの方はどのように声を出したり、もっと大きい声で言った方がいいのかなあと分からない事や不安な事が色々ありましたが、途中で先生が来て下さってアドバイスを下さりました。そのアドバイスを元に5人（女子）でがんばって募金を呼びかけました。すると、一人のおばあさんが立ち止まり、私の方に寄って来ました。その時、私は「おっ？」と思いじーっと見ていると、そのおばあさんが百円玉を二枚ずつ入れてくれました。その時私の心は舞い上がっていて、「ありがとうございます」と言ってしまったと思います。

それからというもの、多くの方が募金活動に参加してくれて、一日ですごく募金箱が重くなりました。

二日目は募金してくれる方が少なかったため、蛍池駅よりは少なくなりましたが、すごく達成感のあるボランティアでした。

この二日間をふり振り返り、私が感じた事は、募金をして下さるやさしさを持っている人達がたくさんいた事です。中には素通りする人もいましたが、ピウをもらってくれる人もたくさんいて、とても良い人達・やさしさを持った人達がいるという事がとてもうれしかったです。

今回ボランティアが終わって集計してみると、なんと4万円以上も集まっていました。二日間というとても大きな数字は、人々のやさしさの集まりだったと思います。中には千円札まで入れて下さった方もいましたが、私が大人になった時にはその位大きな金額を入れられるような大人になりたいです。

☞ その他ご発表いただいた方

豊島西小学校3年

阪田 美希さん

「体験の中で感じたこと学んだこと」

東丘小学校4年

大森 絵莉菜さん

「盲導犬」

熊野田小学校4年

伊佐 百華さん

「思いやりを大切に」

第二中学校1年

中井 絢美さん

「ボランティア活動をして」

高校生のためのボランティアフォーラム

2月2日(土)、蛍池駅ルシオーレホールにてボランティア活動をされている高校生を対象に、上記のフォーラムが開催されました。当日は高校生46人、大人15人の計61人のご参加がありました。

このフォーラムは、「とよなかボランティア活動支援実行委員会」(※)に市社協が協力する形で実施されましたので、ご報告します。

報告

●アイスブレイキング●

まずは、緊張を和らげつつ自己紹介をかねた簡単なゲームをしました。ボランティアに対するイメージも発表していただき、他の高校生がどんな想いを持っているのかも知ることができました。



●ボランティア体験紹介●

平成19年度取り組まれたボランティア体験について各高校からご紹介いただきました。

- ・小学生向けの料理講習会
- ・絵本の読み聞かせ
- ・美術部員による粘土作りやスケッチ教室
- ・豊島高校ボランティアサークル
- ・桜塚高校ラグビー部による「子ども教室」

●グループディスカッション●

“ボランティア10倍増計画”について話し合っていました。様々な意見が出されましたが、ボランティア体験の楽しさを広めるという点ではみなさん共通して感じておられるようでした。



◎参加者の感想◎

- ・全く関わりのなかった人達と「ボランティア」を通して交流できたのがとても楽しかった。
- ・ボランティアといっても多種多様で学べるが多かったです。お互いどのようなボランティアをやっているかということを知ることもいいことだと思います。
- ・体験したことにより楽しさを覚えたという人ばかりで、やはり、一度体験することが大切だと思います。
- ・こんなにボランティアに参加している高校生がいることに驚きました。自分達だけでないと思うと、また新しいことにも挑戦してみようと思えました。

※「とよなかボランティア活動支援実行委員会」とは…

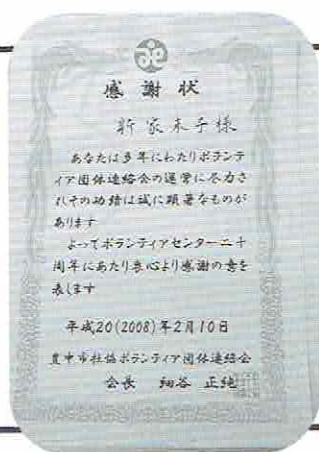
★発足：2005年

★事務局：豊中市教育委員会

地域教育振興課

★実行委員：大阪北YMCA・(財)とよなか国際交流協会・小、中、高校の代表(教員)・地域のボランティアの方・高校生・市社協など

★目的：地域におけるボランティア活動の推進に向け、高校生のボランティア活動など支援していきます。



1988年4月に設立されました、ボランティアセンターが今年で20周年の節目を迎えることとなりました。

このことを記念しまして、長年、市社協のボランティア活動にご尽力賜りました新家末子さんにボランティア団体連絡会会長より感謝状を贈呈いたしました。

<友愛電話訪問のお知らせ>



市社協登録ボランティアグループ「聴くの会」は、ひとり暮らしのお年寄りで話し相手が欲しい方を対象に電話による友愛訪問を行っています。

毎月、第1～4火曜日の午前10時～午後4時の間でご希望の時間を調整の上、お電話いたします。(※お1人に対して月1回のお電話です)

メンバーの方はほとんど女性で、優しくていねいにお話ししていただいておりますので、安心してご利用下さい。

→お問合せ・ご登録は市社協までご連絡お願い致します。

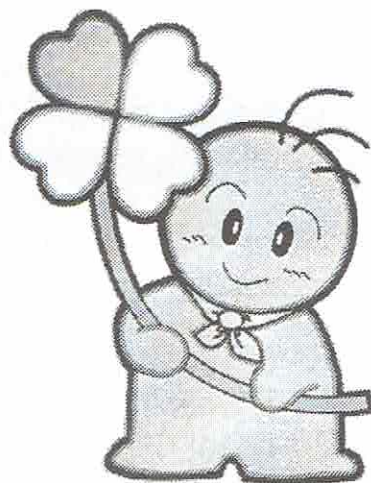
☎06(6841)9393

♥ボランティア保険のご案内♥

市社協では、安心してボランティア活動を行っていただけるように各種ボランティア保険の申し込みを受け付けています。

- ◎ボランティア・市民活動行事保険
- ◎ボランティア活動保険
- ◎移送中事故傷害保険
- ◎非営利・有償活動団体保険

詳しい内容につきましては、ボランティアセンターへお問合せいただくか、もしくは大阪府ボランティア・市民活動センターのホームページ(<http://www.osakafusyakyo.or.jp>)をご参照ください。



編集後記



前号で紹介された「団塊塾とよなか」22名が講座や様々なボランティア体験で十分自信を持たれたことでしょう。ボランティアフェスティバルでも多くの方々の活動を見かけました。地域デビューに成功された方、準備中の方、あせらずに健康に気をつけて充実した活動を…。ガンバレ団塾生！ (豊中アッシーT.I.)